(4)教育現場における森林環境教育の課題

三重県の環境教育(全般)の現状と課題及び森林環境教育について

特定非営利活動法人　大杉谷自然学校
大西かおり

1．三重県の環境教育の現状と課題

(1)三重県の環境教育

①　三重県環境保全活動・環境教育基本方針における位置づけ

三重県では平成17年「三重県環境保全活動・環境教育基本方針」を策定し、環境保全活動と環境教育に取り組んでいる。この方針では四日市公害の学習、伊勢湾等の自然環境の保全や再生の取り組みの紹介と県民、地域団体や行政等多様な主体との協働、環境教育と環境保全活動についての現状と課題等を踏まえ方向性を示している。特に地球温暖化防止、ごみゼロ社会の実現等環境問題や持続可能な社会の構築という基本方針が新たに追加されている。

②　環境保全活動や環境教育の事例

県内での環境教育は豊かな自然環境を活かし、多様な内容が実施されてきている。例えば自然の中で行われるキャンプ、ハイキング、カヌーといった野外活動、動植物や星空観察等の自然・環境学習、自然物を使った工作等の芸術活動、一次産業体験、地域の歴史や文化、地域の人との交流等を含む体験等、広義の意味で自分の周りの環境全体について学ぶものが含まれている。

対象者については小学生を対象に中学生までが主な対象になっているが、近年、環境教育は低年齢から開始するほうがより効果が高い等の研究がなされたり、少子化のために幅広い年齢層へのサービスの拡大がなされたりするため、「森のようちえん」に象徴されるような低年齢層へのサービスも増加している。また、子育て支援策の一環として家族で自然に親しむ機会なども増加している。

実施主体としては行政、NPO、子ども会等団体、企業、学校等様々である。ここ数年はボランティアではなく、仕事として環境教育に取り組む事業型NPOもあり、広義の環境教育を含むプログラムが提供されている。

③　大杉谷自然学校の事例

当校は平成 13 年の開校当時から環境教育団体として活動を行っている。当時、環境教育を掲げているNPOは少なく、環境保全活動団体が多かった。しかし、11 年を経過して、環境教育に取り組むNPOは増加し、多様化している。

当校では自然観察や自然体験活動を主な活動として取り組んでいたが、環境教育に取り組む過程において、活動拠点である大台

町で特に重要性がある内容に重点を置くようになってきた。例えば森林環境教育や限界集落対策及び地域作り、防災教育、一次産業、エネルギー問題等である。このように環境教育というものは非常に広義なテーマを含有しており、地域によって多様化するものである。

特に森林環境教育については、大台町立宮川小学校 4 年生の総合的学習の時間を使い、学校林の間伐から運び出し、市場での販売、収益をどのように分配し合うかまでの総合的な取り組みを平成 15 年度から継続実施している。

(2) 環境教育における森林環境教育の位置づけ

① 三重県環境保全活動・環境教育基本方針と三重県教育ビジョン

この方針内には森林環境教育という言葉が1カ所のみ明記されている。第2章内に「森林環境教育のための条件整備を推進する」とある。環境教育の一環として森林環境教育の条件整備の推進が掲げられており、実際に県営の三重県民の森や上野森林公園が整備されている。

平成23年に策定された三重県教育ビジョンでは森林環境教育という言葉は出てこないものの、基本施策の「豊かな心の育成」の中に「環境教育の推進」と森林を扱う可能性のある「郷土教育の推進」というものがある。

② 新教育指導要領

小学校から高校までの新学習指導要領では環境教育は特別な教科や領域としては設定されておらず、社会・理科等の各教科、道徳及び特別活動のそれぞれの指導を通じて、児童生徒の発達段階に応じて行われることとなっている。この中で森林に関する明記があるのは小学 5 年生の社会科「国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止」の部分だけである。他には環境に関する明記はあるものの、その素材として森林環境教育に該当するものを取り上げるかどうかについては学校の裁量に任せられている。

上記にあるように森林環境教育という言葉自体は比較的新しい言葉(平成 11 年頃)であるが、環境教育の一部分として独立して取り扱われるようになってきている。そして、環境教育には多様なテーマが含まれるため森林環境教育の要素も含まれる可能性もある。

しかし、学校教育全体に占める環境教育は一部分であるに過ぎないため、それに含まれる森林環境教育は未だほんの小さな部分としての扱いに終わっていることになる。

2. 三重県の森林環境教育について

(1) 森林環境教の必要性

① 子ども達を取り巻く環境

三重県は森林が豊かな県であるが、子ども達が森林、林業等に触れる機会が激減している。高度成長期以前は森林資源を活用する循環型生活様式だったが、以降は生活が都市化したため森林

資源を生活に取り入れることがなくなっており、その傾向は森林に近い地域でも同様である。現在の60代以上には豊かな森林で遊んだ記憶や家庭内で森林資源が利用されていた記憶があるが、それ以降の世代には森林と接した暮らしや遊びの経験がない。そのため現在の子どもたちに森林を教えることができる近しい大人がおらず、記憶や言い伝えといった間接的な影響を持つものでさえ減少している。結果として、地域社会や家庭内で生きた森林環境教育を受ける機会がなくなり、子どもたちが森林環境教育を早い段階で受ける機会は重要である。

② 地域での森林を取り巻く現状

県内の地域にはまだ豊かな森林文化を継承する人々が残っているが大変少なくなっている。こうした人々の技術や暮らし方、考え方、価値観等様々なものを学ぶ必要性があり、循環型社会形成への布石となる重要性を持つ。今、継承されてきた森林文化を知る機会は非常に求められているのである。しかし、昨今の林業不振で森林の荒廃、林業従事者の不足、就業場所の減少による人口流出及び過疎高齢化、森林文化の衰退等が地域課題となっており、地域に対する価値観の転換が求められている。

③ 林業従事者や木材消費者の減少

子どもたちが木材に触れる機会は減少している。最近は学校建築自体が木材である事例は増えているが、特に都会の家庭や街では木材の使用が少ない。また、木材が利用されていてもそれが県内産であるかどうかを気に留める人も多くない。

環境教育や森林環境教育には社会や人々の中にある固定化された概念を取り去り多様な価値観を提供する効果が期待できる。例えば森林をエネルギーとして活用する技術や、住宅は三重県材で建てるなど様々な活用方法の選択肢や価値基準が森林環境教育を小さい頃から受けることにより養われる。

(2)森林環境教育の事例(学校教育以外)

三重県は林業が盛んな県で森林が身近にあるため、県民が森林に触れる企画も多い。特に林業が盛んな南部では森林環境教育に取り組むなど、イベント会場にて林業研究会、林業家や木材店等林業関係者の出店が見られる。子ども会で森に遊びに行くことや「森のようちえん」活動なども行われている。

(3)森林の学習推進コーディネート事業

① 県下の学校教育現場での傾向

三重県内での傾向としては特に林業が盛んな県南部にて森林に関する授業を生活科や総合的学習の時間、遠足等の特別活動の時間内に取り組む場合が多い。また、学校林を活用している学校も複数校あり、学校の敷地内もしくは隣接する林内にて児童生徒が自由に活動できるように整備している事例も見受けられる。既に実施している学校は継続性があり、頻繁である傾向にあるが、取り組みが全くない学校も存在しており、その差は大きいといえる。

② 森林の学習推進コーディネート事業実施概要

県では平成18年度「三重の森林づくり基本計画」を策定し森林環境教育を推進してきた。平

成 19 年度からは、学校教育現場において森林や環境及び林業への理解と感心を深め、その有限性と大切さを実感できるよう森林環境教育の機会を増大する「森林の学習推進コーディネート事業」を事業化している。学校教育現場での森林環境教育推進や講師等の調査が行われ、のべ 47 校に森林環境教育を実施し、講師 106 人、フィールド 85 箇所を登録された。

③ 取組内容(添付資料1参照)

内容は森林環境教育の入門編である五感を使った自然学習をはじめ、森林・林業の学習、森林文化・歴史や森林資源の活用まで様々な内容に取り組んでいる。授業時間数は 1 時限 45 分～1 日の活動を1回から継続実施5回程度する学校まで様々である。また、講師は周辺地域の人や近隣の専門性を持つ人を手配している。

④ 森林環境教育プログラムの具体的事例(添付資料2参照)

・多気町立勢和小学校　コーディネーターが直接講師を務めた事例
・紀北町立三浦小学校　林業家と連携し間伐
・紀北町立三浦小学校　林業家と連携し間伐した材を使った活用(クラフト)
・津市立修成小学校　事前事業と野外授業(校外学習)を組み合わせた事例

(4)森林環境教育の課題

① 授業時間の不足や専門性によるハードルの高さ

学校は授業時限数に限りがあるため森林環境教育に取り組むことが時間的に難しい場合が多い。また、森林環境教育は専門性が高いため授業として取り組むには、先生方が新しい知識の習得を余儀なくされ、講師の手配や資金の調達にも新たに時間を割く必要がある。よって全体的に時間の余裕がないと取り組みに至らない。事実、その部分をコーディネーターが紹介したところ取り組みに至るケースがあった。

② 優先順位の低さ

森林環境教育はおろか環境教育でさえ学校教育においては競合するテーマが多い。例えば英語、虫歯を減少させる歯と口の健康など教育の効果が具体的に想定できる内容の授業である。そのため、前述したように実施のために余分な時間を要する森林環境教育は優先順位が低くなりがちである。また、予算措置も執られておらず、取り組むことに切迫感が少ない。

③ 実施主体の推進力と森林環境教育のブランド力の不足

森林環境教育を推進する主体となるNPOや人材が少ない。登録した講師はボランティアである場合が多く、自ら予算を確保してまで森林環境教育を実践する意欲がある人は少数である。

加えて、森林環境教育は環境教育や類する活動の一環に含まれてしまっているため森林環境教育という言葉の認識が低い傾向にある。さらに、取り組まれる内容が入門的で実践しやすいものが多く、リスクが高い技術を要する内容に取り組める人材や団体は少数である。そのため森林環境教育の認識がなかなか進まない。

(5)森林環境教育の推進のために

① 学校教育における優先順位を上げること

学校教育で森林環境教育への取り組みが進めば、家庭や社会において認識があがる。その

ためせめて県内の学校教育現場での取り組みに対する優先順位を上げるように積極的に働きかけるとともに、予算措置を伴い実施を確実なものにすることが考えられる。

② NPO 等推進力のある団体が森林環境教育に取り組む体制を整備する

積極的に森林環境教育を推進する NPO を増加させる体制づくりを行う。この NPO は社会的事業として仕事として取り組む体制を持つ事業型NPO 等であればなお推進力が大きくなる可能性がある。

③ 森林環境教育のブランド化

これまで独立していなかった森林環境教育を明確化するためにこの分野をブランド化する。例えば森林環境教育週間(例:小学 5 年生は木材当てなど森林ゲームを一斉にするなど)を設けるなど、学校教育現場で取り組み易く認知度が上がる方策を検討する。また、学校で取り組み易い内容をプログラム化することや専門性を持つ林業事業体等が関わるようにし多様な教育内容を提供することなども他の分野と一線を画することができる方法の 1 つである。

(6) おわりに

三重県は非常に森林が豊かであり、林業が盛んであった。しかし木材需要の減少のため、林業従事者が減少し高齢化するなど三重の森林文化の礎が揺らいでいる。この状況を打破するためにはこれからの社会を担う子どもたちに森林の素晴らしさを見直してもらう必要がある。子どもたちの世界から遠く離れてしまった森林、これを取り戻すことこそ、遠回りではあるが、三重の豊かな森林を取り戻すための第一歩であるとも言える。そのため平等に教育の機会が与えられている義務教育の学校教育現場に森林環境教育を導入することを目指す努力をしていくべきであろう。

森林環境教育はあくまで教育であるため速効的な効果は期待するべきではないが、長期的に確実に取り組むことにより人の行動や社会が変革する助けになるものである。それは理想としては林業を仕事として希望する子が増加することや三重県産の木材を購入する子が増加すること、生き方暮らし方を見直し多様な選択肢を持つ力のある子が生まれる等、これからの新しい社会を担う子どもたちの未来にとっても新しい可能性を引き出すものになるのかもしれない。森林環境教育の推進は、よりよい三重県、ひいては日本の社会づくりをする上でも欠かせない視点であるとも言える。

① 多気町立勢和小学校

＜ねらい＞　①森林という環境に触れ合う楽しさを学ぶとともに森のはたらきを考え自然の大切さを実感する。
②地域の自然に触れることで、地域についてより深く知る機会を提供し、地域への関心を高める。
③集団活動を通して、自主的・主体的な態度を養い、友だちのよさを再発見する

＜日程＞　平成 22 年9月2日（木）9:30-14:15　※雨天時予備日：平成 22 年9月3日（金）

＜場所＞　多気郡多気町　多気町ふれあいの森

＜対象者・人数＞多気町立勢和小学校6年生 33 名、5年生 48 名／合計 91 名　引率教諭5名

＜コーディネーター＞　大杉谷自然学校4名　・　ボランティアスタッフ2名

＜スケジュール＞

時間	内容	場所／備考
9:00－9:30	○移動（学校からスクールバス）	
9:30-9:40	○挨拶・スタッフ紹介・オリエンテーション・危険な生き物、植物紹介	ふれあいの館前
9:40-10:30	○アイスブレーキング：体を動かすゲーム ● 自然のもの探し：色々な自然の物を、見て覚えて探す活動	芝生
10:30-12:00	○野外料理体験（6年生） ・ カートンドッグ（牛乳パックを燃料にしたホットドッグ作り） ・ 旬の野菜スープ（9月の野菜を使ったスープ作り） ・ デザート（野外で簡単にできるデザート作り） ・ 火熾し（薪で調理用の火を熾し、火加減をする）	炊事場
10:30-12:00	○メダル作り（5年生） ●スギの間伐材を使って、丸太のメダルを作る ・ 丸太を輪切りにし、紙やすりで磨いて絵を描く →運動会の際に、来年入学予定の園児にプレゼントする	立梅用水沿い
12:00-13:15	○カートンドッグ調理（5・6年生）・調理と掃除・片付け	炊事場
13:15-14:10	○森林についての話	勢山荘前
14:15	解散	

○お皿に乗っている自然物を覚えて、班ごとに周囲の自然から同じもの探す活動

○ヒノキのメダル作り

○メダルは運動会用

○昼食は火を使って野外炊飯

②紀北町立三浦小学校

＜ねらい＞　三浦小学校の学校林を活用し、環境学習の一環として森林体験学習を進める。学校林の自然観察や林業体験を通して、自然の面白さ、大切さ、自然を利用する知恵や技術などを総合的に体験することを目的とする。

＜日程＞　平成 22 年9月 14 日(火)　13:30-15:00
雨天時予備日:平成 22 年9月 21 日(火)

＜場所＞　三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島区三浦　三浦小学校学校林

＜対象者・人数＞紀北町立三浦小学校4-6年生 20 名、引率教諭5名

＜講師＞　三井物産フォレスト株式会社2名

＜アドバイザー＞三重県環境森林部　自然環境室　1 名

＜ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ＞　大杉谷自然学校3名

＜スケジュール＞

時間	内容	備考
13:30-13:45	○挨拶・スタッフ紹介・オリエンテーション ○学校林まで移動	三浦小学校 グラウンド
13:45-14:50	○間伐体験 ●林業についての導入の話 ・ 作業の1年のサイクル・ 間伐の意味 ●説明 ・ 講師が見本を見せながら手順、注意事項を説明 ●3班に分かれて間伐体験 ・ ノコギリを使って伐る・ ロープで引く・ 枝打ち、 皮むき	三浦小学校学校林
14:50-15:00	○まとめ ・ 間伐材の利用方法、今後の話等	
15:00-15:10	○学校へ移動・解散	三浦小学校

○間伐の大切さを教えてもらう

○ノコギリを使っての間伐

○先生に教わって順調に間伐

○倒す時にはロープを引っ張る

○皮剥き作業も行った

○冬にはこの木がベンチになる

③紀北町立三浦小学校2

＜ねらい＞　三浦小学校の学校林を活用し、環境学習の一環として森林体験学習を進める。学校林の自然観察や林業体験を通して、自然の面白さ、大切さ、自然を利用する知恵や技術などを総合的に体験することを目的とする。

＜日程＞　平成 23 年2月 25 日(金)　13:30-15:00

＜場所＞　三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島区三浦　三浦小学校グラウンド

＜対象者・人数＞三浦小学校4-6年生 20 名、教諭4名

＜講師＞　三井物産フォレスト株式会社2名

＜コーディネーター＞ 大杉谷自然学校2名

＜スケジュール＞

時間	内容	場所
13:00-13:10	○挨拶・オリエンテーション	三浦小学校
13:10-14:30	○ベンチづくり ●ベンチの造り方説明 ●作業 ・ ノコギリを使って長さを揃える ・ ドリルで釘を打つ穴を空け、五寸釘を打って組む ・ できたベンチをグラウンドに設置する	校舎横 ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ
14:30-14:40	○まとめ ・ 木の利用促進の意味について	
14:40	○終了	

○ベンチの長さに切りそろえる

○釘を打つ前に錐で穴あけ

○五寸釘でベンチを組み立て

○金槌で台に固定

○ベンチの座り心地確認

○学校林の木材でできたベンチ

④津市立修成小学校

＜ねらい＞　①宮川での川遊びを通じて、自然に触れ合う楽しさを学ぶとともに、清流宮川とその周辺に広がる森林の働きを考え自然の大切さを実感する。

②修成小学校の近くを流れる岩田川での総合学習での体験と宮川の体験を比較する。特に生物についての学習を行う。

＜日程＞　事前授業:平成 22 年9月 27 日(月)13:30-14:15(45 分)

野外授業:平成 22 年9月 28 日(火)10:15-15:00

＜場所＞　事前授業:津市修成町　津市立修成小学校教室

野外授業:多気郡大台町久豆　大杉谷地域総合センター及び宮川

＜対象者・人数＞津市立修成小学校4年生 50 名、教諭4名

＜講師＞　なし

＜コーディネーター＞　大杉谷自然学校5名

＜事前授業スケジュール＞

時間	内容	場所／備考
13:30-	○挨拶・オリエンテーション ● 宮川の概要 ・ 地図を見ながら岩田川と宮川の比較	修成小学校多目的教室
13:35-13:50	○宮川に生きる生き物 ●生物と環境のつながりを学ぶ ・ 鳥のペレット－(カワセミの餌の魚) ・ 魚の胃の中身-(アマゴの餌の水生昆虫) ・ 葉っぱ・藻－(カワニナの餌の葉(珪藻等) →3つのものを見て何かを話し合う ●生き物と環境のつながりについての解説	
13:50-14:15	○川と深いかかわりのある森林の話 ・森林の役割を写真を使いながら解説 ・写真を見せて宮川上流、源流部を紹介 ・岩田川との違いを聞く	
14:15-14:30	○まとめ ○キャンプの持ち物確認	

○宮川の概要についての紹介と宮川に住む特徴的な生き物と、周囲の環境とのかかわりについて、班毎に話し合う活動などを行った

○地元の岩田川について調べたことと比較しながら、真剣に話を聞いていた

＜野外授業スケジュール＞

時間	内容	場所／備考
6:30	催行判断・実施場所連絡	
10:15-10:30	○オリエンテーション	大杉谷地域総合センター
10:30-10:50	○準備運動・川での安全な過ごし方 ・ ライフジャケット装着・注意事項	宮川
10:50-12:15	○川での体験 ●つかみどり体験（4班で順番に） ・ 鮎をつかみ、串にさすまで各自実施する ●調べ活動（つかみどりと班毎に交代で実施） ・ 網で魚とり ・ ミニ釣竿で魚釣り体験 ・ 水性昆虫探し ・ 周辺環境の観察	
12:15-13:00	○昼食 ・ 鮎の塩焼きをお弁当と一緒に食べる	
13:00-14:00	○調べ活動	
14:00-14:30	○着替え・休憩	大杉谷地域総合センター 体育館
14:30-15:00	○まとめ「森林について」	
15:00	○解散	

○鮎のつかみ取りや食べることで生き物とのつながりを体感し、水生昆虫の観察や河川の周辺の様子を観察し、森林や川を含む環境のつながりを学習した

森林とのふれあい・森林環境教育のすすめ

森林の学習を授業に取り入れませんか？

～体験実施校募集中～

三重県では平成 19 年度より「森とのふれあい・学び事業」に取り組んでいます。特に「森林環境教育」については、学校での授業として森林や自然環境をテーマにした体験活動に取り組みいただくことをお薦めしているところです。

＜特徴＞

・ご希望内容にそって、講師、フィールド、内容をご紹介させていただきます。

・講師代等の費用については無料（食費、交通費等一部を除く）です。事業完了までコーディネートを実施します。

・時間数は最低 1 時限からで、教室内の体験実施も可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

・学校行事として取り組む場合もコーディネート可能です（植樹祭や保護者との活動等）。

＜平成 21 年度実績例＞

時期	時限数	学校名・学年	学年	人数	内容
6 月後半	300 分	松阪市立大河内小学校	6 年生	18 名	間伐、皮むき体験
11 月後半	120 分	紀宝町立鵜殿小学校	5 年生	56 名	森林散策と林業の勉強
11 月後半	205 分	伊賀市立花之木小学校	4 年生	11 名	竹炭焼き体験
12 月前半	100 分	鈴鹿市立鈴西小学校	4 年生	51 名	学校林体験
12 月前半	90 分	伊賀市立花之木小学校	4 年生	11 名	竹炭を使ったご飯づくり
2 月前半	45 分	四日市市立常磐西小学校	5-6 年生	40 名	椎茸の菌打ち体験
2 月後半	60 分	紀北町立三浦小学校	1-6 年生	36 名	地域講師による学校林調査
3 月前半	90 分	伊賀市立花之木小学校	4 年生	11 名	椎茸菌打ち体験

＜林業体験（間伐・皮むき）＞

＜自然観察（葉っぱ観察）＞

＜椎茸の栽培体験（菌打ち）＞

ご希望があれば、大杉谷自然学校までご連絡ください。

●NPO 法人大杉谷自然学校（「平成 22 年度森林の学習推進コーディネイト事業」受託者）

〒519-2633 三重県多気郡大台町久豆 199

TEL:0598-78-8888 FAX:0598-78-8889

e-mai:osn@ma.mctv.ne.jp URL:http://osugidani.jp/

●主催：三重県環境森林部 自然環境室 森林環境グループ

〒514-8570 津市広明町13番地

TEL:059-224-2513 URL:http://www.eco.pref.mie.jp/morifure/

森林での体験教室「森林環境教育」について

今日、地球温暖化など様々な環境問題が深刻化する中で、温室効果ガスの吸収をはじめ、森林のもつ他面的な機能やその役割への期待が高まっています。

しかし、その一方で、健全で豊かな森林や自然環境を守り育てていくことが、大きな課題となっており、多様な主体(学校・市民団体・企業)による森林づくりなど、社会全体で森林環境を支えていくことが重要となっています。

「森林環境教育」は、子どもたちが森林での体験活動を通して、
森林や自然環境の大切さ、自身とのかかわりについて考え、
将来、前向きに行動する力を身につけることを目指しています。

学習と体験の場としての森林

日々の生活の中で、森林環境について学ぶ機会や、森林や木とふれあう機会は少なくなり、森林と人々の暮らしとの関わりも希薄になりつつあります。森林は森林資源としての利用だけでなく、自然環境や郷土の歴史、文化について学ぶ「良好な学びの場」となります。

講師	地域住民、森林組合、研究員、体験施設職員、自然体験指導者など専門知識をもった意欲的な人材を紹介、マッチングしていきます。
フィールド	教室、グラウンド、学校林、公園、山林、社寺林、体験施設など様々なフィールドで行うことができます。
プログラム	1時限から、年間を通じて総合的な内容で行う複数回のプログラム、学年のレベルに応じた内容まで様々な体験があります。ゲームなどを用いた自然とのふれあいや、林業体験、生態系調査などテーマも多岐にわたります。 理科、社会、図工、総合学習、校外活動などの授業時間にご活用いただけます。

自然の中には遊ぶ素材も観察する対象も溢れています。視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚の五感を使えば楽しみ方も多様です。自然環境に興味を抱く第一歩は、自然に親しむことです。

色々な活動テーマ

- 感じる
（五感を研ぎ澄ませて自然を感じる）
- 生き物探し
（昆虫・動物・鳥など多様な生き物を知る）
- 遊ぶ
（自然の中では普段の遊びにも変化が生まれる）
- 集める、観察する
（葉・種・きのこ・石など様々なものを知る）
- 自然素材で創作・表現活動
（自然、形、色を楽しむ：葉っぱの絵、木のカルタ、草木染め、短歌）
- 挑戦する
（ハイキング・山登り・グループワークなど自分や友だちと挑戦する）

森林が自然界で果たす役割は多様です。森林での学習や林業体験は、森林がもつ様々な役割や機能について、実体験を通して学ぶことができます。

色々な活動テーマ

- 調べる、まとめる
（動・植物や森林の環境について調べて知る）
- 森林の公益的機能について
（生物多様性や水源、CO2吸収などについて知る）
- 職業体験
（林業、炭焼きなど森林に関わる仕事の体験）
- 体験する
（間伐、枝打ち、市場見学、植樹、加工、炭焼きなどを体験から学ぶ）
- 自然素材で創作・表現活動
（木を加工する技術を身につけ、創作の楽しみを知る）
- 挑戦する
（仲間と協力して作業に挑戦する）

森林文化・歴史

日本の素晴らしい木の文化を
未来の子どもたちに伝え残す活動

日本人が培ってきた木の文化はこの国の気候風土に合ったものです。面積の65％が森林という国にあって、豊かな森林を有効に利用してきた知恵や技術は数多く残されています。

色々な活動テーマ

- 調べる・まとめる
（森林に育まれた歴史や文化を調べてまとめる）
- 見学・聞き取り
（木の文化を今に残す社寺林・建築物・工芸品などの見学や調査など）
- 体験する
（炭焼き技術、筏や木馬（きんま）など木を運び出す技術を体験から学ぶ）
- 昔の生活・地域学習
（薪や炭を使った生活や森林資源を活用した昔の生活を調べる）

森林資源の活用

森林資源は再生可能なエネルギーであり、
様々に姿を変えることができる原料です。
木材の利用は、環境保全につながります。

加工や利用の体験を通して、様々な恵みをもたらす森林資源について知ると共に、生きる力を育むことのできる学習です。環境やエネルギー問題について考える上でも大切な題材です。

色々な活動テーマ

- 体験する
（薪割り、炭焼き、木材加工技術などを体験から学ぶ）
- 昔ながらのエネルギー
（自然から採集できる再生可能なエネルギーについて知る）
- 調べる
（身近な木製品調べや木の原産地調べなど）
- ものづくり
（ベンチや家づくりなど森林資源の加工と利用を考え、楽しむ）
- 採集する
（食べられる木の実や山菜を知る、食べる方法を知る）
- 森林整備
（歩道や階段などの森林整備で利用しやすい森林をつくる）